

宝本エピソード

鹿児島県立図書館 企画展示「宝本エピソード展」より

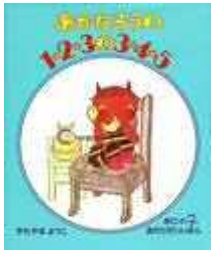
展示期間：平成28年12月6日（火）～平成29年1月20日（金）

募集期間：平成28年6月23日（金）～平成28年9月9日（金）

募集対象：県民一般（幼稚園、学校、公立図書館を通じて募集）

（一般応募の部より）

母		子	【エピソード】 私と娘の宝本は、娘が保育園の年長の時、本屋で出会いました。ママの死という伝え方、とらえ方の難しい内容を子どもにもわかりやすく、笑いに変えながら教えてくれる本でした。私は、母親の気持ちになり泣いてしまいましたが、娘はおかしく笑いつつも、泣く私を見てまた笑っていました。 読み終えた後、あんなに笑っていたのに、私に感謝の気持ちを伝えてくれたので何ともいえない気持ちになりました。この本を親子で読むことができ、心から嬉しく思いました。きっと、これからもこの本を大事にしてくれると思います。
母		子	【エピソード】 わがやの子どもたち3人に、繰り返し繰り返し読み聞かせした思い出の絵本です。いつしか上の子が下の弟に読んであげたりして、今でも大切にしています。 「きんぎょがにげた。」「こんどはどこ。」という単調なやりとりが親しみやすく、長く読み続けられる絵本なのだと思います。 子どもたちが成長し、親になった時、また自分の子どもにも読んであげてほしいです。
母		子	【エピソード】 次女が2歳の頃だったか、何度も何度も「読んで。」と私のひざ元に持ってきた本です。長女は、絵本より動き回ることが好きな子どもだったので、次女の大好きに私がのめり込んでしまいました。あきるまで読むことにつき合い、ある満月の晩、出窓のカーテンを開けた次女が「あっ！おつきさま！こんばんは。」と言って、嬉しそうに夜空を見上げて声を張り上げていました。あの満足げな顔を見ることができたのが、私は幸せだと感じました。 この絵本は、私と次女の絵本デビューのきっかけを作ってくれた大切な宝本です。

母  子 書 名 あかたろうの1・2・3の3・4・5 著 者 名 北山葉子/作・絵 出版社名 偕成社	【エピソード】 この本は、お兄ちゃんが小さい時に買ってもらった本なので、ぼくが生まれたときからありました。ねる前にかならず、お母さんに本を読んでもらっていたので、お母さんから「絵本をえらんできなさい。」と言われると、ぼくは毎日この本を選んでいました。今では、3さいの弟もこの本が大すきなので、ぼくが読んであげています。
わたし  書 名 なんでも魔女商会 きらめきハートのドレス 著 者 名 あんびるやすこ/著 出版社名 岩崎書店	【エピソード】 わたしは、小学校の図書室にある「なんでも魔女商会」のシリーズが大好きでたくさん読んでいました。その中で一番好きな話が、「きらめきハートのドレス」です。この話は、お客様の良いところを見つけてドレスにするお話です。わたしもこの本を読むと、自分のよいところを見つけられた気がします。この本は、わたしのよいところを見つけてくれた宝本です。
わたし  書 名 ともだちひきとりや 著 者 名 内田麟太郎/作 降矢なな/絵 出版社名 偕成社	【エピソード】 この本は、ぼくに友達の大切さを教えてくれた本です。いくらけんかをしていても、気になってしまうのが友達だなと思いました。ぼくの友達は、明るくて面白いです。ぼくが、こまっている時や、悲しい気持ちの時、助けてくれたり、はげましてくれたりします。この本を読むと、その友達のことを思い出します。その友達のことを、これからも大切にしていきたいです。
わたし  書 名 りんごかもしれない 著 者 名 ヨシタケシンスケ/作 出版社名 ブロンズ新社	【エピソード】 「りんごかもしれない」という題名と絵。表紙には、りんごをいろいろなものに例えている絵がかかれています。私は、じっと表紙をながめました。表紙の絵を見て、この本が好きになりました。ページを開くと、りんごをいろいろなものに例え、りんごをいろいろなものに変身させていました。絵の一つ一つの表情や、様子が細かくかかれています。一つのものから、いろいろな発想を広げ、みんなを楽しませます。しょうらい、こんな本を作りたいと思った宝本です。

姉  わたし 書 名 ちいさな星の子と山ねこ 著 者 名 にしまきかやこ/作・絵 出版社名 こぐま社	【エピソード】 ぼくには、11才はなれたお姉ちゃんがあります。そのお姉ちゃんが小さいころ、お母さんに読んでもらった本です。とっても好きだったので、もうボロボロになってしまっているのですがお姉ちゃんもぼくによく読んでくれました。 星の子がちきゅうにきて、山ねこがマントをやぶって、山ねこが一生けん命なおすところがやさしいなと思います。さいごに山ねこがぐっすりねむるので、ぼくもきもちよくねむれました。
父  わたし 書 名 ぼくらの七日間戦争 著 者 名 宗田 理/作 はしもとしん/絵 出版社名 KADOKAWA	【エピソード】 ぼくがお父さんに「小学生の時、おもしろかった本って何？」ときいたら、「ぼくらの七日間戦争」と言ったので、本を読むことにしました。 読んでみると、本の中の主人公になったみたいで本を読むのが楽しみになってきました。胸をドキドキさせながら読んでいると、すぐに読み終わってしまいました。 ぼくは本を真面目に読むことがなかったので、自分でもびっくりしました。 この本は、ぼくを楽しい気持ちにさせてくれるので、ぼくの宝本です。
わたし  わたし 書 名 一步一步タロ〜！ジロ〜！南極物語 信じるキモチ。 著 者 名 チーム151E☆/文 出版社名 学研教育出版	【エピソード】 山海留学で親元をはなれた時に出会った本です。さびしくても、負けないところが私に勇気をくれました。「仲間となら、なんでもできる。」というところざしを教えてくださいました。 「私には仲間がいる。」と気づいてからは、自然と笑顔もふえ、5年間があつという間に過ぎていました。 この本は、あたたかい"勇気"をくれる宝物です。
わたし  わたし 書 名 リズム 著 者 名 森 絵都/著 出版社名 講談社	【エピソード】 『リズム』は、私が中学1年の時に出会った本です。 本の主人公が中学生で、私と共感できるところも多くあり、笑ったり、泣いたりした本です。 中学生になって悩み事が増え、落ち込んだ時、この本の「自分らしさ」や「リズム」という言葉がとても印象に残りました。 私の気持ちを言葉で表現してあり、読むたびにとてもはげまされます。 この本は、いつも自分をはげましてくれる宝本です。

母 子 書 名 かわいそうなぞう 著 者 名 つちやゆきお/ぶん たけべもといちろう/え 出版社名 金の星社	【エピソード】 戦争でつらいめにあったのは、人間だけではなく、動物も同じ。 私も子どもの頃、母から読んでもらい、とても胸が痛くなったことを覚えています。 私も親になった時、体験したことではないけれど、この絵本を読み伝えていきたいと思っていました。 夏休みの間に迎える終戦記念日。 この本を読み聞かせることが、恒例となっています。
母 子 書 名 ちょっとだけ 著 者 名 瀧村有子/さく 鈴木永子/え 出版社名 福音館書店	【エピソード】 次男が生まれて必死にお姉ちゃんになろうとしていた長女。そんな時に、私の姉が娘にプレゼントしてくれました。「ちょっとだけ」に込められた子どもの想いに改めて気づかせてくれた絵本でした。そのときの娘の姿と重なり、初めて読んだ時はいろんな想いが込み上げて、涙が流れてきました。同時に温かい気持ちになりました。娘も頻繁にリクエストしてくるようになり、娘にとっても、心の拠り所となった絵本だと思います。 物語は、もちろん、鈴木さんの絵も見ていてほっこりします。是非、たくさんの方々に読んでほしい一冊です。
わたし 書 名 ちいさなあなたへ 著 者 名 アリスン・マギー/ぶん ピーター・レイノルズ/え なかがわちひろ/やく 出版社名 主婦の友社	【エピソード】 3才の息子と本屋さんで何気なく手にとって読みました。たくさんの方がいるにも関わらず、とめどなく涙がこぼれてしまったことを今でも覚えています。「あの日はあなたの小さな指をかぞえ、その1本1本にキスをした。」「もっと高くまで自分を試すこともあるだろう。」「悲しい知らせに耳をふさぎたくなることもあるだろう。」いつの間にか忘れていた感覚・・・みなぎる力、世界は素晴らしいと感じていた時間が私にもあったことを思い出させてくれました。この子にも、そんなキラキラした未来が待っているんだと想像しました。7才になり、子育てに毎日右往左往している今ですが、いつか見送る日がやってくる・・・遠い日の記憶になってしまうこの時間をできるだけ大切にしなければと思わせてくれた私の大切な宝本です。
母 子 書 名 あなたをずっとずっとあいしてる 著 者 名 宮西達也/作・絵 出版社名 ポプラ社	【エピソード】 子どもが生まれてから、毎日夜寝る前に本を読んであげていました。「あなたをずっとずっとあいしてる」の本は、私から娘にプレゼントをした本です。 どんなことがあっても、これからもずっと、あなたのことは大切に思っているんだよという思いを込めて、何回も読んであげました。読んでいる途中で、涙が出てきてしまい、次に進めなくなった時、娘が私のことをぎゅっと抱きしめてきたことを今でも覚えています。

(団体取組の部より)



小宝島小・中学校では、1学期の始めに「私のおすすめの本」として学校の友達に紹介する文章を書く活動を行いました。児童生徒は、色をつけたり、イラストを入れたりするなど、みんなが読みたくなるような工夫をしていました。紹介文を読み、読書に意欲的に取り組む児童生徒の姿も見受けられるようになったと感じています。また、教師による読み聞かせも行いました。児童生徒の発達段階に合わせ、より多くの本を読み聞かせするようにしました。その本を読んでみての感想発表や意見交換をする時間も設け、子どもたちの読書活動の充実を図っています。

10月には読書会を計画しています。ブックトークや大人による読み聞かせを行う予定です。児童生徒が一冊でも多くの本と出会い、豊かな心を育むための取組を学校全体で行っています。

市 町 村 十島村

所 属 名 小宝島小・中学校



阿久根小学校では、6月の読書指導強調週間の取組として、親子20分間読書の推進に励んでいます。今年度はその取組に「わがや・わたしの宝本」と題して、各家庭に宝本エピソードを募集しました。集まったエピソードは、所蔵している本があるものは本と一緒に、夏休み期間から図書館内に展示しています。毎月配布している図書館便りでも紹介したり、読み聞かせの絵本の選定にも生かしたりしています。

どの家庭にも宝物のように大切にしている本があり、子どもの成長を感じながら読み聞かせしている様子が、たくさんのエピソードの中から伝わってきます。

この取組を通して、親子や家庭での読み聞かせ、そして本を通じたふれあいの時間の大切さを考えてもらい、もっと家庭で読書をするきっかけになればいいと思います。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 阿久根小学校



親子読書の記録
(平成28年度)

()年()月()日 (6/22(木)~6/26(日))

本の題名	作者名
------	-----

お家の方と読む記録にのりよう！
 ●「本」にのりよう！
 ●「お家の方」にのりよう！
 ●「お家の方」にのりよう！

こどもの感想

お家の方から一言

※6/27(月)までに提出をお願いします。

大川小学校では、毎月23日の「子どもといっしょに読書の日」にあわせて「親子読書の記録」を各家庭へ配布し、提出してもらうようにしています。

「親子読書の記録」には、お家の方と一緒に本を読んだり、お家の方に聞いてもらったりした本の紹介と感想を子どもたちが書きます。そして、その下にお家の方からも一言感想を書いてもらいます。提出された記録には司書からの感想を添え、子どもたちや学校に來られた保護者の方も見るできるように、校内にある展示コーナーに展示しています。

この「親子読書の記録」を書くことで、親子で読書をする時間をもち、読書に興味をもついい機会になっているようです。

これからも、親子でもっと読書に親しみ、たくさん本と出会えるように取り組んでいきたいと思っています。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 大川小学校



「読書集会」
大型絵本の読み聞かせ



「スペシャルお話し会」
パネルシアター



夏休みに「宝本」さがし
をしました。

阿久根市立山下小学校では、図書委員会が活躍しています。

まず、4月の「子ども読書の日」に合わせて、「読書集会」を開きました。何回も練習をして、ドキドキの中、大型絵本の読み聞かせを披露しました。

6月は、昼休みにスペシャルお話し会をしました。エプロンシアターやパネルシアターの実演、山下小のシンボルマーク「まもるくん」のスタンプカードや「おみくじをひいてもう1冊借りられる券をもらおう！」など、図書委員が計画し、みんなを図書室に呼び込みました。

2学期に入り、「読書の秋まつり」の企画会議がさっそく始まっています。

このように、図書委員が進んで楽しみながら読書活動を行うため、全校児童もどんどん図書室に通います。この図書委員のモチベーションをどれだけバックアップできるかが、司書の役割だと思い、日々作戦を練っています。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 山下小学校



「宝本」エピソード展



田代小
緑陰読書会
2016



市立図書館「エプロンシアター」



5, 6年生による「手作り紙芝」



木陰で「自由読書」

阿久根市立田代小学校では、本が大好きな子どもたちのために夏休みに、市立図書館主催の緑陰読書会を開いていただいています。山間の小学校ですので、なかなか特別な読書活動に触れる機会がないせいか、子どもたちは毎年、心待ちにしています。今年度は、家庭教育学級の一環として保護者の方々にも参加していただきました。合わせて、「宝本」のエピソード展も行いました。大きなセンダンの木陰で、1年生の手遊びに始まり、5・6年生が、全校児童が登場する手作りの紙芝居を披露し、お楽しみの市立図書館の先生方による実演になると、盛り上がりも最高潮です。また、館長さんから読み聞かせのときの「本選び」や「話し方のコツ」なども御指導いただき、実りある読書会になりました。

これからも、学校司書として、地域（市立図書館）・家庭・学校がお互い協力し合い、本を通して子どもたちの豊かな心の育成に寄与できるよう、そのパイプ役を担っていけたらと思っています。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 田代小学校



※ボンにゃん：大川中学校のイメージキャラクター

大川中学校は、生徒数14人、職員数14人の小規模校です。

大川中学校では、毎月「ボンにゃんお話タイム」という読み聞かせの活動を行っており、今年で4年目を迎えます。毎月輪番の生徒（時には職員）が、昼休み時間を利用して自分のお薦めの本や話題になっている本、社会の動きに関する本などを選んで、全校生徒・職員に読み聞かせや紹介を行います。時には、エプロンシアターに挑戦する生徒もいます。

本校の図書室にある本だけでなく、市立図書館の巡回図書を利用することもあります。紹介した本を図書室に展示・紹介するので、興味をもった生徒が図書室を利用したり、読んだりする場面が多くあります。

本校のキャッチフレーズである〔「人前カ」発揮！！〕を実際に披露することで、表現力を高め、全校あげて本に触れる機会となっています。

市 町 村 阿久根市

所 属 名 大川中学校



野間小学校では、6月にあじさい、10月にどんぐり読書週間を設けて図書委員会を中心に、お昼休みに読み聞かせ、しおり作り、読書クイズ大会などのイベントを行っています。

6月は、自分のおすすめする本の紹介をはがきを書いて友達に配る「読書郵便」をしました。挿絵を入れたり、感想を書いたり、本の良さが相手に伝わるように工夫して取り組んでいました。はがきを手に本を借りに来る姿も見られました。

また、隔週水曜日の朝は、「そらいろのたね」のグループのみなさんが、季節にあった本や方言での読み聞かせをしてくださいます。図書室の本でブックトークをしてくださることもあり、書架が空になることもあるほどです。

これからも、子どもたちがお気に入りの本に出会えるように、本の魅力をたくさん紹介していきたいと思います。

市 町 村 中種子町

所 属 名 野間小学校



開陽高校では、谷山北公民館で毎月第3土曜日に行われている"おはなしのじかん"のボランティアに図書委員が不定期で参加しています。

参加するときは、何か月も前から子どもたちの好きそうな（興味のありそうな）絵本を選定し、読み聞かせの練習をしています。

今年度からは、ビッグブックやわらべ歌などを取り入れるようにして、子どもたちが飽きずに楽しめるような内容を心がけました。

子どもたちは、ビッグブックの絵本の大きさにとても喜び、興味津々で絵本を見ていました。そして、わらべ歌では体全体を使って楽しんでいました。でも、一番楽しんでいたのは、実は高校生だったかもしれません・・・。

今後も楽しい読みきかせができるように工夫をしていきたいと思っています。

市 町 村 鹿児島市

所 属 名 県立開陽高等学校(全日制)



屋久島高校では、6月に行われた文化祭において図書室コーナーを設け、ポップアートなどで飾り付けた生徒の推薦図書の展示を行いました。図書委員を中心に周りの家族や友人に紹介したい書籍を話し合い、実物を飾り付ける中で、図書委員が積極的に図書室に来室するようになり、さらに読書量が増えるというよい効果も見られました。また、本校で年間通して発行している図書便りにおいて、保護者に対しても積極的に新刊図書の紹介を行い、子どもとともに読書を楽しんでもらえるような機会を提供しています。さらに、本校で取り組んでいる朝読書では、家庭の会話などから端を発して司書や司書教諭等にお薦めの本を訪ねたりする生徒が増え、新たな読書の興味分野を開拓する生徒が増えました。結果的には図書室の利用者が昨年と比較して3倍に増加するなど、図書室における読書指導の効果が現れています。大きな書店のない離島にあっては、図書室の担う役割は大きいと考えます。これからもさまざまな取組をしていながら、おやこ読書の推進に努めていきたいと思ひます。

市 町 村 屋久島町

所 属 名 県立屋久島高等学校



↑ 幼稚部

- ・教頭による読み聞かせ（読書月間イベント）
- ・「今月の絵本」リスト



↑ 小学部

- ・電子掲示板を使った読み聞かせ
- ・親子読書カード



↑ 中学部

- ・毎週行っている朝読書
- ・季節や教育課程に合わせた課題図書



↑ 高等部

- ・生徒の作品（スチール小物、椅子カバー、壁学校図書館キャドを備えた、視聴覚コーナーラクター“アオマル”のベンチ）



↑ パソコン・日本語字幕付きDVD・

- マルチメディアデジター図書な

鹿児島県立学校は、県内唯一の聴覚特別支援学校で、3歳から20歳までの子どもたちが在籍しています。学校生活の様々な場面をとおして、言葉に触れる機会を作っています。

幼稚部では、教師・保護者・ボランティアグループによるおはなし会を、毎月実施しています。また、教師が選書をして「今月の絵本」リストを作成しています。

小学部は、教師による朝の読み聞かせをしています。児童の実態を考慮してグループを分け、毎週実施します。また、「親子読書カード」を作成・展示しています。

中学部は、朝読書を毎週実施しています。課題図書も準備し、落ち着いた雰囲気の中で行っています。生徒の読み聞かせをとおした、他の学部との交流も特色のひとつです。

高等部も毎週朝読書を実施しています。各学科で身につけた専門の技術を、図書館の家具作りや装飾にも生かしています。また、視聴覚コーナーを積極的に活用し、視覚による幅広い学習にも取り組んでいます。

今後も生徒の読書活動や、学習意欲の向上に貢献できる図書館を目指します。

市 町 村 鹿児島市

所 属 名 県立鹿児島県立学校

宝本

様

年 月 日

鹿児島県立図書館 認定